



親日派のキャシー＆ディルさん夫妻が経営。後ろのキルト作品はキャシーさんの手作り

### ～キルトとは～

元々ヨーロッパで発祥した手芸のキルト。主流はボルティモアキルトと呼ばれるもので19世紀後半、メソジスト会派の女性が献金を募る目的で作ったり、牧師さんへの贈り物、結婚のお祝いとして作られたものが多いという。風景を写実的に表した模様や、華やかな花のアップリケが特徴的だ。現在では、その手法を真似て作るものを持ちボルティモアキルトと呼ぶ場合がある。日本ではバッチャワークと呼ばれることが多いが、まったく同じ物。日本はアメリカに次いで手芸キルトの盛んな国で、毎年国際バッチャワーク・フェアが盛大に開かれている。

■The City Quilter  
133 W. 25th St (Bet 6th & 7th Aves.)  
212-807-0390  
火～金11am-7 pm,  
土10am - 6pm, 日11am - 5 pm  
目閉店 [www.cityquilter.com](http://www.cityquilter.com)

# キルト★人気の店 The City Quilter

今、マンハッタンで大ブレイク中のキルト専門店「シティ・キルター」。色とりどりの糸、布、針、パターン、素材から力ラフルな元成品まで、まさにキルト博物館だ。店内に入つてすぐ、日本製の糸や生地専門のコーナーが目を引く。キルト関連の本や雑誌にも興味を持

界各国から日本の雑誌や書籍までがすらりと並んでおり、日本のタレントでキルト手芸の専門家でもあるキャシー・中島さんの本も数冊並んでいます。朝から晩まで客の流れが絶えることはない。男性客もちらほら目に付くのが印象的だ。

やサックスフィフィズアベニューなどと肩を並べた。オーナーはキャシー・イップさん。夫のデイル・リールさんが全面的にバックアップしている。キルト店を出すまでは夫婦とともにテレビ業界に身を置いていた。日本テレビの広告業界とも関係が深

A photograph of a textile shop, likely in a garment district. The shop is packed with shelves and racks filled with a wide variety of colorful fabrics, including traditional batik patterns. In the foreground, there's a counter or workbench covered with more fabrics, some tools like a measuring tape, and several small woven baskets containing additional fabric samples.

毎年東京や横浜で開かれるキルト・ショーに出かけ各団のキルト愛好家と交流を深めている。

日本製の専門コーナーも

「オーナーの好みで、世界各国から日本の雑誌や書籍までがすらりと並んでいます。日本のタレンツでキルト手芸の専門家でもあるキャシー・中島さんの本も数冊並んでいます。朝から晩まで客の流れが絶えることはない。男性客もちらほら目に付くのが印象的だ。

この店はマンハッタン西25丁目にある。「ザガット」のショッピングガイドで、品質、サービス、プレゼンテーションのいずれも高得点をマーク、調和の取れた「優良店舗」に、ティファニー、ベニーなどと肩を並べた。

オーナーはキャシー・イツさんは、夫のデイル・リールさんが全面的にバックアップしている。キルト店を出すまでは夫婦ともにテレビ業界に身を置いていた。日本の広告業界とも関係が深い。90年代初め、キャシーさんがキルトに魅せられ、97年にキルトストアをオープン。03年に現在の25丁目店に移転した。シティ・キルターの特徴は、年間通じてのキルトクラスの充実ぶり。

A photograph of a vibrant fabric store interior. The store is filled with shelves stacked high with a wide variety of colorful fabrics, including solids, patterns, and textures. A long wooden counter in the foreground is covered with various items, including bolts of fabric, spools of thread, and small containers. The lighting is bright, highlighting the colors of the fabrics.

カラフルなファブリックが整然と並ぶ店内。ガーメント地区ではめずらしい

「ニューヨーク・マガジン」でも最良のキルトクラスと絶賛されている。初心者から経験豊富な生徒までを対象に毎セメスター45のクラスが用意されていて、ひとクラスで定員は12人まで。ジュディ・ドニースさんを始め優秀な先生14人が指導にあたっている。

クラスは月曜日以外は毎日昼と夜2時間ずつ、ろうけつ染めや人気の高い日本の「刺し子」の指

導も行われている。日本の生徒も多く、この日午後のクラスも3人の生徒が受講していた。

日本からわざわざシティ・キルターを訪ねて来る熱心な愛好者も多いといふ。「手縫いと機械縫いがあるんです」と特殊なキルト用のミシンも扱っている。

キャシーさんとティルさん夫妻は、ともにかつて日本語を学んだ経験があり、大の親日家。ほほ

微笑んだ。  
**(塩田眞実記者)**